

2019年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

次の（設例）を読んで、問（１）、（２）に答えなさい。

（設例）

1. Aは、個人で印刷業を営んでいたが、現在使用している印刷機械甲が古くなったので、甲を売却して新たな機械を購入しようと考えた。ちょうど中古の印刷機械を探していたBと知り合いになり、甲の売却について話を持ちかけたところ、機種と製造年を聞いたBは、甲を200万円で購入したいがどうかと述べた。適切な値段だと考えたAは甲をBに売ることに決めた。
2. その翌日、Aのもとを訪れたBは、甲を確認して「これなら申し分ないので、購入したい」と述べ、前日の話通り、200万円を代金としてAに支払った。
3. Aは200万円を受け取ったが、急ぎの印刷の仕事があるので、「2週間だけ、この機械でどうしても仕事をしなければならない、まさかこんなに早く売れると思っていなかったのでも申し訳ないが、2週間後にここに引き取りに来てくれないか、それまでは私が保管しておく」と申し向けた。Bは「これまで通り大事に使ってくれるのだしたら、それでかまわない」と応じた。
4. その後Aが甲で作業をしていたところ、Aの友人で中古機器の販売業を営むCがAのもとを訪れた。Cは甲を見て「そろそろ処分したいと言っていたがどうした」とAにたずねた。甲がどのくらいの値段で売れるのか気になったAは「おまえだったらいくら出す」と問い返した。AはプロであるCがどの程度の値段をつけるか気になったからである。Cはこれに対して「おれだったら300万円は出すな」と述べた。
5. それを聞いたAが「実は200万円で売ってしまった」とCに返答したところ、Cは「それはもったいないことをしたな、おれなら今すぐにでも300万円で買うから、先方には急に売れなくなったと言って200万円返却すればいいだろう」と述べ、「今晚、300万円用意して、取りに来るから、よろしく」と述べ、その数時間後300万円を用意してトラックでAのもとを再び訪れ、Aに300万円を交付し、AはCに言われるがまま、Cが甲をトラックに積み込むのを手伝った。Cはそのまま自らが契約している倉庫業者Dの乙倉庫を訪れ、乙倉庫で保管するように依頼して、甲を乙倉庫に運び込んだ。
6. Cは数日後、かねて印刷機械を探していた顧客のEに甲が新たに入荷したことを告げたところ、Eは乙倉庫に保管してある甲を見て、Cから350万円で購入することに決め、Cの店に戻ってその場で350万円を支払ったが、Cに対して「いま作業場にある機械を処分して引き取りに来ることにしたい」と述べた。Cは即座にDに電話し「甲はEさんが購入したから、Eさんが引き取りに行くまでは、Eさんのために保管して欲しい」と述べ、Dはこれを了承して、乙倉庫の物品台帳の名義をC名義から

E名義に改めた。なお、Eは、AがBに甲を売却したという経緯について知らず、知らないことに過失もなかった。

7. その後、甲の受領のためにAのもとを訪れるためBがAに連絡したところ、Aは「甲は売れなくなったので200万円をお返ししたい」と述べたが、Bは納得せず「少し考えさせて欲しい」と述べた。翌日Bが友人に相談したところ、その友人は「最近同じような機械をおまえも知っているCが売りたいと言っていたから、話を聞いてみたらどうか」と述べた。BがCのもとを訪れて話をするとCは「その機械はまだ乙倉庫にあるがEさんに売ったからあきらめてください」と述べた。

問(1)(配点:40点)

(設例)の事実1~5までを前提として、次の(ア)及び(イ)に解答しなさい。
なお、解答にあたっては事実6及び7は考慮しないこと。

(ア)(配点:15点)

占有改定とはどのようなものか説明しなさい。

(イ)(配点:25点)

甲の所有権はBとCのいずれにあるか検討しなさい。解答にあたっては、その根拠を明らかにすること。

問(2)(配点:60点)

(設例)の事実1~7を前提として、BがEに対して甲の引渡しを請求した場合、この引渡請求は認められるか検討しなさい。解答にあたっては、甲の引渡請求がどのような根拠に基づくものであるか述べた上で、予想されるEの反論とその適否を踏まえて検討すること。